

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	信州豊南短期大学
設置者名	学校法人 豊南学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
		全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
言語コミュニケーション学科	夜・通信		5	40	45	7	
幼児教育学科	夜・通信		4	29	33	7	
(備考)							

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

「実務経験のある教員一覧」を学生に配布。学生便覧のシラバスページにアスタリスクを付けて実務家教員を示している。また本学ホームページに公表している。 <a href="https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/files/2022jitumukakyouin.pdf">https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/files/2022jitumukakyouin.pdf</a>
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	信州豊南短期大学
設置者名	学校法人 豊南学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

信州豊南短期大学ホームページにて理事の名簿を公表。 <a href="https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/files/2022rijimeibo.pdf">https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/files/2022rijimeibo.pdf</a>
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	4年 R4.5.27 ～ R8.5.26	コンプライアンス の徹底
非常勤	大学教員	4年 R4.5.27 ～ R8.5.26	専門的立場及び経 営の視点からの学 校運営
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	信州豊南短期大学
設置者名	学校法人 豊南学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>毎年、10月から教務委員会を中心に次年度のシラバス記入要領の見直しを行い、要領を定め11月中に全教職員に配布するとともに教員に対し説明会を開催し、よりよいシラバスの作成に向けた活動を行っている。シラバスとは何か、短期大学設置基準等による位置づけ、シラバス執筆前に各学科のDP、CP、APの十分な確認(3つのポリシーも毎年点検実施)が必要であることなどを冒頭に述べている。</p> <p>そのうえで、授業内容を表す「キーワード」、「授業内容・授業の目的」「授業の・到達目標(学習成果)」「授業計画・準備学習等」「成績評価の方法・基準」「テキスト」「参考書等」「学生へのメッセージ・履修上の留意点」を記載したシラバスの作成を求めている。本年度は「課題のフィードバックの方法」を加えた。「授業計画・準備学習等」の項目では1単位が45時間の学修内容をもって構成されることを確認し、授業時間だけではない準備学習等の重要性についても説明し、準備学習等の目安の時間を記載し、学生の授業時間以外の学習の推進を図っている。また、「成績評価の方法・基準」においては学習成果に基づく「ルーブリック」の作成を求め、「ルーブリック」による厳格な成績評価を求めている。「ルーブリック」そのものは現時点では公表してはいないが、これらの内容を踏まえて作成したシラバスは冊子にまとめて入学時に学生及び保護者に示している。原則として6月末までにはホームページを通じてすべての授業科目のシラバスを公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>ホームページへの掲載及び冊子にまとめ配布</p> <p><a href="https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php">https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php</a></p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学習意欲の把握は入学時の調査から開始。入学後にやってみたいこと、学びたいこと、目標、卒業時の理想像、それを達成するためには何が必要と考えるかなどを記入させ、担任を中心としたゼミ別の少人数履修指導を通じ、調査票をもとに一人一人の学生と話し合いながら履修科目を決定している。これらの指導を通じ学習意欲を確認し、学科で情報の共有を行っている。加えて授業時の学生の状況観察、アンケートや課題の提出、小テストの状況、発表等における積極性、授業評価アンケートによる当該科目の準備学習等の時間の確認、出席状況等により学習意欲を把握している。すべての科目において「試験の上、単位認定を行う」ことを確認し、シラバスに記載した試験方法(筆記試験、レポート、実技試験等)により実施している。試験前の1か月間の間にすべての授業科目において、シラバスを用い「成績評価の方法・基準」について改めて学生に説明することを教員に求めている。そのうえで試験を実施し、到達目標、成績評価の基準をもとに作成した「ルーブリック」を用い、厳格かつ適正に評価し、単位認定を行っている。また単位認定をどのように行ったのか、学科会で各教員に説明を求め適正であるかどうかの確認を実施している。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

学生便覧の成績評価の項目にGPAを加え、GPAの仕組み、計算方法等について年度当初のガイダンスにおいて学生に説明を行っている。

本学のGPAは次のとおりである。

標語		配点	合否	1単位当たりのグレードポイント
秀	S	100点～90点	合格	4
優	A	89点～80点	合格	3
良	B	79点～70点	合格	2
可	C	69点～60点	合格	1
不可	F	59点～0点	不合格	0
放棄	/	—	—	—

(成績評価とGPA)

●GPAの計算方法 (学生便覧抜粋)

GPAは、学期ごとのGPA (以下「学期GPA」) と入学時から当該期までのGPA (以下「通算GPA」) の二種類とし、学期GPA及び通算GPAの計算は、次に定めるところによるものとし、計算値は少数点第3位以下を四捨五入して表記する。

(ア) 学期GPA

$$\frac{\text{(当該期に評価を受けた科目のGP} \times \text{その科目の単位数) の総和}}{\text{当該期の総履修登録単位数}}$$

(イ) 通算GPA

$$\frac{\text{(各学期に評価を受けた科目のGP} \times \text{その科目の単位数) の総和}}{\text{総履修登録単位数}}$$

各学科及びゼミ担任等は、以下のGPAの基準に基づく学生の学修指導の計画を策定し、学生の指導を行っている。

また、GPAによる表彰や指導等の基準に関する原則についても説明し、これらをホームページにおいて公表している。GPAをもとに成績の分布状況を学期ごとに確認し、学科内での話し合いを経たうえで以下の基準に従い学生指導を実施している。

●GPAと学習指導

・1年次前期GPAが「1」未満の者への対応 ((ア) 学期GPA) — 後期履修登録までにゼミ担任が指導を行う。ゼミ担任に該当する者がいない場合、教務責任者 (各学科の教務委員から選出) または副学科長等が指導を行うこととする。

・年間のGPAが「1」未満の者への対応 ((イ) 通算GPA) — 保証人同席の上、学科長が嚴重注意を行うものとする。

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

本学ホームページ  
( <https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/files/2022shikentanininteigpa.pdf> )

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

言語コミュニケーション学科の卒業認定の方針は次のとおりである。

**1. 「知識・理解」** — 社会に貢献できる幅広い教養及び専門的な知識を身につけ、その本質を理解していること。

(学習成果)

1-1 理解力 — 授業のテーマや問題の本質を的確にとらえ、正確に理解することができる。

1-2 専門知識 — 専門的な用語の意味や概念を正しく理解することができる。

1-3 教養 — 時事問題や社会マナーなど、社会人に必要な知識を習得することができる。

**2. 「技能・表現」** — 社会に役立つ実用的なスキルや資格、情報リテラシーなどを習得し、社会人として必要とされる、豊かなコミュニケーション能力を有していること。

(学習成果)

2-1 コミュニケーション能力 — 日本語や外国語を用いて、正確に、読み、書き、聞き、話すことができる。

2-2 情報リテラシー — コンピュータなどの ICT を用いて、多様な情報を収集・分析して活用することができる。

2-3 資格取得 — 各種検定試験や資格試験に合格可能な知識を習得することができる。

**3. 「思考・判断」** — さまざまな問題・課題を発見し、自ら論理的に考え判断する能力を有していること。

(学習成果)

3-1 課題発見力 — さまざまな状況に際して、問題点や課題を発見することができる。

3-2 論理的思考力 — 情報や知識を多方向から論理的に分析することができる。

3-3 問題解決力 — 問題解決に必要な情報や知識を適切に選択することができる。

**4. 「関心・意欲・態度」** — 人間、社会、文化などにかかわる諸問題に関心を持ち、積極的に他者に働きかけ、状況を把握しながら主体的に解決しようとする意欲を有していること。

(学習成果)

4-1 主体性・規律性 — 人間、社会、文化などにかかわる諸問題について、自主的・自律的に学習することができる。

4-2 働きかける力・柔軟性 — 目標達成のために、他者と協力して行動することができる。

4-3 実行力・状況把握力 — 習得した知識や技能などを活用して、積極的に課題に取り組むことができる。

この卒業認定の方針をもとに、ここに示す能力を身に付けるべく授業を実施し、その結果を適切に評価し、認定された修得単位数（学習成果獲得状況含む）を踏まえて卒業の認定を行っている。各学科では教務委員が卒業認定の方針に合致しているかどうか、各シラバスをチェックし問題のある場合は修正を依頼している。

幼児教育学科も言語コミュニケーション学科と同様に卒業認定に関する方針を定め適切に実施している。幼児教育学科の卒業認定の方針は以下のとおりである。

**1. 保育の本質**—自主的に学び続ける姿勢と、保育者及び支援者として適切な使命感及び倫理観を持ち、子どもをはじめ支援を必要とする人々に共感的にかかわることができる。

(学習成果)

1-1 (子ども観) —子どもの主体性を尊重することができる。

1-2 (家庭・地域連携) —家庭や地域と連携するとともに社会的資源を活用する重要性を理解している。

1-3 (保育者の資質) —保育者として望ましい使命感・倫理観及び共感的な態度を身につけている。

**2. 保育の対象への理解**—保育の本質を理解し、子どもの成長・発達及び子どもを取り巻く環境に関する確かな知識を修得している。

(学習成果)

2-1 (保育の原理) —養護と教育が一体となって展開される保育について理解している。

2-2 (子ども理解) —子どもの心身の成長や発達に関する知識を有している。

2-3 (文化的教養) —発達に即した児童文化財(絵本や紙芝居等)を選択することができる。

**3. 保育の方法と技能**—保育に関する基本的な技能とそれを活用するための豊かな教養を有し、子どもをはじめ福祉を必要とする人々に寄り添った保育実践と支援を行うことができる。子どもの表現活動を支援する技能を有している。

(学習成果)

3-1 (専門的技能) —子どもの表現活動を支援する技能を有している。

3-2 (保育の計画力) —子ども及び環境に即した保育の計画を構想することができる。

3-3 (保育の応用力) —子ども一人ひとりに寄り添った保育を展開することができる。

**4. 論理的思考力**—社会問題を広く把握・理解し、問題解決を目指すことができる。

4-1 (情報リテラシー) —書籍や新聞、インターネット等を用いて、様々な社会問題について情報を収集・分析することができる。

4-2 (文章作成能力) —収集した情報及び獲得した知識・理解を用いて、論理的に思考し言語化することができる。

4-3 (発表力) —自らの体験や思考を順序立てて説明することができる。

**5. 実践力と協働性**—社会の担い手として、自らの経験を多様な人々と協力しながら、社会の発展に積極的に貢献することができる。

5-1 (自己省察力) —自らの知識・技能・経験を省察することができる。

5-2 (課題探究力) —社会に存在する諸課題を発見し、解決策を模索することができる。

5-3 (人間関係形成力) —様々な人々と協調・協働することができる。

この卒業認定の方針をもとに、ここに示す能力を身に付けるべく授業を実施し、その結果を適切に評価し、認定された修得単位数(学習成果獲得状況含む)を踏まえて卒業の認定を行っている。各学科では教務委員が卒業認定の方針に合致しているかどうか、各シラバスをチェックし問題のある場合は修正を依頼している。

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

[https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index\\_4.php](https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php)

## 様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	信州豊南短期大学
設置者名	学校法人 豊南学園

### 1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_5.php">https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_5.php</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_5.php">https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_5.php</a>
財産目録	<a href="https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_5.php">https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_5.php</a>
事業報告書	<a href="https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_5.php">https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_5.php</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_5.php">https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_5.php</a>

### 2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	
中長期計画(名称: 学校法人豊南学園中期5ヵ年計画 対象年度: 令和2年度~令和6年度)	
公表方法: <a href="https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/files/2020honantyuukikeikaku.pdf">https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/files/2020honantyuukikeikaku.pdf</a>	

### 3. 教育活動に係る情報

#### (1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 自己点検評価報告書をホームページにて公表。 <a href="https://www.honan.ac.jp/about/">https://www.honan.ac.jp/about/</a>
--

#### (2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: ホームページにて公表 <a href="https://www.honan.ac.jp/about/">https://www.honan.ac.jp/about/</a>
---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 言語コミュニケーション学科
教育研究上の目的 (公表方法： <a href="https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_3.php">https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_3.php</a> ) (概要) 言語コミュニケーション学科は広く教養を高め、専門の知識と技能を深く教授研究し、国際的視野と豊かな感性、コミュニケーション能力を有する社会人として、地域社会に貢献し、国際社会に雄飛する人材の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： <a href="https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php">https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php</a> ) (概要) 言語コミュニケーション学科では所定の単位を修得し、以下の条件を満たした者に短期大学士(言語コミュニケーション)の学位を授与します。 【知識・理解】社会に貢献できる幅広い教養及び専門的な知識を身につけ、その本質を理解していること。 【技能・表現】社会に役立つ実用的なスキルや資格、情報リテラシーなどを習得し、社会人として必要とされる、豊かなコミュニケーション能力を有していること。 【思考・判断】さまざまな問題・課題を発見し、自ら論理的に考え判断する能力を有していること。 【関心・意欲・態度】人間、社会、文化などにかかわる諸問題に関心を持ち、積極的に他者に働きかけ、状況を把握しながら主体的に解決しようとする意欲を有していること。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： <a href="https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php">https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php</a> ) (概要) 言語コミュニケーション学科の教育課程は、教育目標を達成すべく、以下の方針に基づいて編成しています。 【知識・理解】社会人として広く求められるキャリア教育の実践を通して、現代社会に貢献できる専門的な知識及び適応能力を養成する。 【技能・表現】社会人に求められるコミュニケーション能力、日本語・英語能力、及びパソコンを用いて情報を収集し、活用できる能力を習得させる。 【思考・判断】知識活用力、課題探究力、論理的思考力、表現力を総合的に活用する能力を養成する。 【関心・意欲・態度】人間、社会、文化などにかかわる諸問題に関心を持たせ、具体的・実践的に解決していこうという意欲を育てる。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： <a href="https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php">https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php</a> ) (概要) 言語コミュニケーション学科では次の学生を求めています。 【知識・理解】専門的な教養や知識を身につけるために必要となる日本語、英語などの基礎学力を有している人。 【技能・表現】ことばによる豊かなコミュニケーション能力を身につけ、資格やスキルを生かして社会人として活躍したいという意欲を持つ人。 【思考・判断】適切な思考・判断力を持ち、自立した人間を目指す人。 【関心・意欲・態度】人間、社会、文化などに興味・関心を持ち、自分の問題として捉えることができる人。



①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 幼児教育学科
教育研究上の目的（公表方法： <a href="https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_3.php">https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_3.php</a> ） （概要）幼児教育学科は広く教養を高め、専門の知識と技能を深く教授研究し、豊かな感性とコミュニケーション能力を有する社会人として、地域社会における幼児教育の振興に寄与する有為な人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： <a href="https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php">https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php</a> ） （概要） 幼児教育学科では所定の単位を修得し、以下の条件を満たした者に短期大学士(教育学)の学位を授与します。 1. 保育の本質—自主的に学び続ける姿勢と、保育者及び支援者として適切な使命感及び倫理観を持ち、子どもをはじめ支援を必要とする人々に共感的にかかわることができる。 2. 保育の対象への理解—保育の本質を理解し、子どもの成長・発達及び子どもを取り巻く環境に関する確かな知識を修得している。 3. 保育の方法と技能—保育に関する基本的な技能とそれを活用するための豊かな教養を有し、子どもをはじめ福祉を必要とする人々に寄り添った保育実践と支援を行うことができる。 4. 論理的思考力—社会問題を広く把握・理解し、問題解決を目指すことができる。 5. 実践力と協働性—社会の担い手として、自らの経験を多様な人々と協力しながら、社会の発展に積極的に貢献することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： <a href="https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php">https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php</a> ） （概要） 幼児教育学科の教育課程は、教育目標を達成すべく、以下の方針に基づいて編成しています。 1. 保育者としての使命及び倫理観を身につけ、共感的に対応しようとする姿勢を養う。 2. 保育や福祉を取り巻く環境について理解し、保育者として必要な基礎的な知識を獲得できるようにする。 3. 保育等に関する指導法及び表現技術を身につけることができるようにする。 4. 社会の問題について把握・理解し、学んだ事柄をもとにして、さまざまな人々協働してそれらの問題の解決を図ろうとする力を養う。 5. 資格取得を奨励し、社会に貢献する力を養う。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： <a href="https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php">https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php</a> ） （概要） 幼児教育学科では次の学生を求めています。 1. 主体的に学ぶ意欲のある人。 2. 短期大学での学びに対応できる基礎的学力のある人。 3. 協働性を持って物事に取り組める人。 4. 保育の技能（音楽・図工・体育等）を高める努力をしている人。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：[https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index\\_3.php](https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_3.php)

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	人	—					人
言語コミュニケーション学科	—	4人	3人	2人	0人	0人	9人
幼児教育学科	—	3人	2人	3人	0人	0人	8人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
1人			16人				17人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： <a href="https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4_2.php">https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4_2.php</a>					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
令和3年度は9月2日（木）に長野県教育委員会及び県内高校の教員をお招きし、学内教職員研修会を「高校教育で取り組まれている学びの理解」と題して実施。教職員が全員参加。10月に授業参観・授業研究会を行った。これら以外に年間に5回の会議を開催し、授業評価アンケートの活用法など議論を重ね次年度に活かしていくこととした。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
言語コミュニケーション学科	100人	59人	59.0%	200人	129人	64.5%	0人	0人
幼児教育学科	100人	41人	41.0%	200人	85人	42.5%	0人	0人
合計	200人	100人	50.0%	400人	214人	53.5%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
言語コミュニケーション学科	42人 (100%)	4人 (9.5%)	32人 (76.2%)	6人 (14.3%)
幼児教育学科	46人 (100%)	0人 (0%)	46人 (100%)	0人 (0%)
合計	88人 (100%)	4人 (4.6%)	78人 (88.6%)	6人 (6.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
言語コミュニケーション学科	45人 (100%)	38人 (84.5%)	1人 (2.2%)	6人 (13.3%)	0人 (0%)
幼児教育学科	51人 (100%)	44人 (86.3%)	3人 (5.9%)	2人 (3.9%)	2人 (3.9%)
合計	96人 (100%)	82人 (85.4%)	4人 (4.2%)	8人 (8.3%)	2人 (2.1%)
(備考)					

### ⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）本学の全学科の授業科目は「学科の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成」し、「学科に係る専門の学芸を教授し、職業又は実生活に必要な能力を育成するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮しなければならない。」との短期大学設置基準に基づいている。

そのうえで入学者受け入れ方針により入学した学生に対し、教育課程編成方針に基づく適切な授業科目を配置、および教育を行い、卒業認定の方針に基づく学習の成果を獲得することができるよう教育を行っている。それぞれの科目の位置づけを明確にするとともに、当該科目の授業方法を定め、身に付けるべき能力を到達目標（学習成果）としてシラバスに明記し、示した成績評価の方法基準によって単位認定を行っている。

シラバスには授業内容を表す「キーワード」、「授業内容・授業の目的」「授業の到達目標（学習成果）」「授業計画・準備学習等」「成績評価の方法・基準」「課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法」「テキスト」「参考書等」「学生へのメッセージ・履修上の留意点」を記載し、作成している。「授業計画・準備学習等」の項目では1単位が45時間の学修内容をもって構成されることを確認し、授業時間だけではない準備学習等の重要性について説明し、執筆を依頼している。また、「成績評価の方法・基準」においては「ルーブリック」の作成を求め、それによる成績評価を求めている。「ルーブリック」そのものは公表してはいるが、これらの内容を踏まえて作成したシラバスは冊子にまとめて公表を行っている。同時にホームページを通じてすべての授業科目のシラバスを公表している。

一昨年度から「課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法」を項目に加え、試験等を解説を加えて対面で学生に返却している。令和2年度前期はコロナウイルスの関係で実施を見送ったが、後期及び令和3年度は学生に返却を行い、自分の学びの成果を確認させた。

また年間の授業計画は定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とし、半期15週にわたる期間を単位として授業を実施している。また、短期間に集中的に学ぶことにより高い効果の期待できる一部の科目については集中授業として、長期休業期間中に実施している。

なお、幼児教育学科の授業科目については教育職員免許法等の法令の定めにより、適切に配置している。

授業科目及び年間計画等についても、毎年点検評価を実施し、検討を加えている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) すべての授業科目において試験を実施し、到達目標(学習成果)、成績評価の基準をもとに作成した「ルーブリック」を用い、厳格かつ適正に評価(成績評価は以下の表に基づく)し、単位認定を行い、両学科とも卒業要件単位の修得および以下の学習成果の獲得を持って卒業を認定している。

標語		配点	可否	1単位当たりのグレードポイント
秀	S	100点～90点	合格	4
優	A	89点～80点	合格	3
良	B	79点～70点	合格	2
可	C	69点～60点	合格	1
不可	F	59点～0点	不合格	0
放棄	/	—	—	—

言語コミュニケーション学科の卒業認定の方針は次のとおりである。

**1. 「知識・理解」**— 社会に貢献できる幅広い教養及び専門的な知識を身につけ、その本質を理解していること。

(学習成果)

1-1 理解力 — 授業のテーマや問題の本質を的確にとらえ、正確に理解することができる。

1-2 専門知識 — 専門的な用語の意味や概念を正しく理解することができる。

1-3 教養 — 時事問題や社会マナーなど、社会人に必要な知識を習得することができる。

**2. 「技能・表現」**— 社会に役立つ実用的なスキルや資格、情報リテラシーなどを習得し、社会人として必要とされる、豊かなコミュニケーション能力を有していること。

(学習成果)

2-1 コミュニケーション能力 — 日本語や外国語を用いて、正確に、読み、書き、聞き、話すことができる。

2-2 情報リテラシー — コンピュータなどの ICT を用いて、多様な情報を収集・分析して活用することができる。

2-3 資格取得 — 各種検定試験や資格試験に合格可能な知識を習得することができる。

**3. 「思考・判断」**— さまざまな問題・課題を発見し、自ら論理的に考え判断する能力を有していること。

(学習成果)

3-1 課題発見力 — さまざまな状況に際して、問題点や課題を発見することができる。

3-2 論理的思考力 — 情報や知識を多方向から論理的に分析することができる。

3-3 問題解決力 — 問題解決に必要な情報や知識を適切に選択することができる。

**4. 「関心・意欲・態度」**— 人間、社会、文化などにかかわる諸問題に関心を持ち、積極的に他者に働きかけ、状況を把握しながら主体的に解決しようとする意欲を有していること。

(学習成果)

4-1 主体性・規律性 — 人間、社会、文化などにかかわる諸問題について、自主的・自律的に学習することができる。

4-2 働きかける力・柔軟性 — 目標達成のために、他者と協力して行動することができる。

4-3 実行力・状況把握力 — 習得した知識や技能などを活用して、積極的に課題に取り組むことができる。

この卒業認定の方針をもとに、ここに示す能力を身に付けるべく授業を実施し、その結果を適切に評価し、認定された修得単位数(学習成果獲得状況含む)を踏まえて卒業の認定を行っている。各学科では教務委員が卒業認定の方針に合致しているかどうか、各シラバスをチェックし問題のある場合は修正を依頼している。

幼児教育学科も言語コミュニケーション学科と同様に卒業認定に関する方針を定め、適切に実施している。幼児教育学科の卒業認定の方針は以下のとおりである。

**1. 保育の本質**—自主的に学び続ける姿勢と、保育者及び支援者として適切な使命感及び倫理観を持ち、子どもをはじめ支援を必要とする人々に共感的にかかわることができる。

(学習成果)

1-1 (子ども観) —子どもの主体性を尊重することができる。

1-2 (家庭・地域連携) —家庭や地域と連携するとともに社会的資源を活用する重要性を理解している。

1-3 (保育者の資質) —保育者として望ましい使命感・倫理観及び共感的な態度を身につけている。

**2. 保育の対象への理解**—保育の本質を理解し、子どもの成長・発達及び子どもを取り巻く環境に関する確かな知識を修得している。

(学習成果)

2-1 (保育の原理) —養護と教育が一体となって展開される保育について理解している。

2-2 (子ども理解) —子どもの心身の成長や発達に関する知識を有している。

2-3 (文化的教養) —発達に即した児童文化財 (絵本や紙芝居 等) を選択することができる。

**3. 保育の方法と技能**—保育に関する基本的な技能とそれを活用するための豊かな教養を有し、子どもをはじめ福祉を必要とする人々に寄り添った保育実践と支援を行うことができる。

(学習成果)

3-1 (専門的技能) —子どもの表現活動を支援する技能を有している。

3-2 (保育の計画力) —子ども及び環境に即した保育の計画を構想することができる。

3-3 (保育の応用力) —子ども一人ひとりに寄り添った保育を展開することができる。

**4. 論理的思考力**—社会問題を広く把握・理解し、問題解決を目指すことができる。

4-1 (情報リテラシー) —書籍や新聞、インターネット等を用いて、様々な社会問題について情報を収集・分析することができる。

4-2 (文章作成能力) —収集した情報及び獲得した知識・理解を用いて、論理的に思考し言語化することができる。

4-3 (発表力) —自らの体験や思考を順序立てて説明することができる。

**5. 実践力と協働性**—社会の担い手として、自らの経験を多様な人々と協力しながら、社会の発展に積極的に貢献することができる。

5-1 (自己省察力) —自らの知識・技能・経験を省察することができる。

5-2 (課題探究力) —社会に存在する諸課題を発見し、解決策を模索することができる。

5-3 (人間関係形成力) —様々な人々と協調・協働することができる。

この卒業認定の方針をもとに、ここに示す能力を身に付けるべく授業を実施し、その結果を適切に評価し、認定された修得単位数 (学習成果獲得状況含む) を踏まえて卒業の認定を行っている。各学科では教務委員が卒業認定の方針に合致しているかどうか、各シラバスをチェックし問題のある場合は修正を依頼している。

学科名	卒業に必要となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
言語コミュニケーション学科	62 単位	有・無	1 学期間に 30 単位
幼児教育学科	62 単位	有・無	1 学期間に 30 単位
GPA の活用状況 (任意記載事項)	公表方法： <a href="https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/files/2022shikentanininteigpa.pdf">https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/files/2022shikentanininteigpa.pdf</a>		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：[https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index\\_3.php](https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_3.php)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
言語コミュニケーション学科	760,000 円	200,000 円	210,000 円	
幼児教育学科	760,000 円	200,000 円	210,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) 修学支援は入学試験合格後に本学で実施する入学準備授業から始まる。卒業・学位授与の方針、教育課程編成の方針、単位制度(成績評価及びGPA制度等を含む)、教育課程(卒業要件)、特色ある授業科目、資格取得の説明等を行い、模擬授業を体験してもらう。単位制度についてはなぜ準備学習等が必要か丁寧に説明する。その後、入学目的アンケートを実施し、入学直後のガイダンスでゼミ別に徹底した履修指導を行う。その後に2週間に1回開催される学科会で学生の学習状況の確認を行い、情報共有し、問題のある学生については面談を行い、修学指導を行っている。また保護者全員に短大生活全般、進路等の相談希望を募り、5月下旬から6月上旬に希望のある保護者と個別相談を実施し、その後に相談記録の情報共有を行っている。令和2年度はコロナウイルス感染症により中止を余儀なくされたが、令和3年度はオンラインで、令和4年度は対面で相談会を実施した。</p> <p>日常的には学生全員が必ずゼミに所属していることから、ゼミ終了後、またはオフィスアワーを利用し面談を行っている。これとは別に学生相談室が用意され、保健師またはカウンセラーが状況に応じ、授業に出られない等々の相談を受け適切に対応している。また昨年度からは授業についていくことがやや困難な学生に対し、課外に基礎学力を上げていくための学習会を行っている。これらの情報も学生からの特別の申し出があるものを除き、情報共有を行っている。ただし、手取り足取りの指導ではなく、原則として相談に応じ学生自らが考える時間を確保し、自らの力で改善していけるよう背中を押していくことを基本としている。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) 教職員で作る進路指導委員会、職員のみで構成するキャリア支援室を設置し、進路選択に関する支援を行っている。この二つの組織の役割等を明確にしたうえで、状況に応じ役割を超えた部分で協力し、年間の進路指導計画の立案実行、日々の学生相談、就職先へのアンケートの実施、メインではないが卒業生の指導も行っている。また、ハローワーク、ジョブカフェ信州と協力関係を結び、専門的立場からの進路指導講和、個別相談も学内で実施。また保護者の果たす役割も重要であるとの認識から、1年次に保護者アンケートを実施し、必要に応じ相談会も行っている。その際は入学目的アンケートに本人が記載した内容等も参考にし、話し合いを行い、指導の参考にしている。進路指導委員会には編入学等を専門に担当する者を配置し、進学についてはカリキュラム等との関係もあり編入学等担当者が直接担当している。</p> <p>なお、保証人(保護者)に対してもジョブカフェから講師を招き、就職活動を迎えた学生を持つ親はどうあるべきかといった内容の講演会を行っている。令和3年度はオンラインで実施したが、令和4年度は対面とオンラインの両方で行い、保護者にも好評であった。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) 学内に保健室を設置し、保健師が常駐している。定期健康診断の実施に始まり、日々の体調不良等への対応、辰野町総合病院との連携協力、個別相談を行っている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法 : <a href="https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/">https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/</a>  信州豊南短期大学紀要: 信州豊南短期大学事務局まで E-mail 等でご請求いただければお送りします。  E-mail office@honan.ac.jp</p>
---

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F220310105945
学校名	信州豊南短期大学
設置者名	豊南学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		30人	28人	58人
内 訳	第Ⅰ区分	13人	11人	
	第Ⅱ区分	-	-	
	第Ⅲ区分	-	-	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				58人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)		0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		0人	—
「警告」の区分に連続して該当		0人	—
計		0人	5人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間		前半期	0人 後半期
			0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。



3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)		0人	0人
G P A等が下位4分の1		—	—
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		—	—
計		8人	5人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。